

## 希望査読制度の導入等について

既に『文化人類学』81巻4号でお知らせ致しましたように、学会員のみなさまが『文化人類学』誌に論文を投稿するさいの「投稿票」にご記入いただく内容を、このたび一部変更いたしました。『文化人類学』誌のデザイン・リニューアルにともなう技術的理由から投稿者の所属機関の記入形式等が変更になったほか、大きな変更点としては、とくに「査読に関する希望」の記入につきまして、以下概要をお知らせいたします。

今期『文化人類学』編集委員会では、論文の査読という行為に、投稿者・査読者・編集委員会の三者からなる協働作業としての性格をいっそう明確ににあたえるための方策を練ってまいりました。その一環として、新しく、初回投稿時にのみ、論文投稿者自身が編集委員会に宛てて、「希望する査読者」「希望しない査読者」をそれぞれ任意で記入できることといたしました。査読者の選定にさいして、編集委員会では他にも様々な条件を考慮する必要がありますので、むろんこの記入欄は、投稿者の希望がそのまま認められることを保証するものではありません。他方で、「希望する査読者」を挙げることは、投稿者がどのような読者を想定して原稿を執筆したかについての意思伝達を、編集委員会に向けて可能とします。また、「希望しない査読者」を挙げることは、不公正な査読の危険を予防するための方策となります。

このたびの「査読に関する希望」記入の導入は、査読過程の適正化をもつばら目的とするものです。また、本編集委員会は投稿者に対し、査読上の利益相反に関する指針を作成いたしました。あわせてご参照下さい。

査読過程の適正化は、論文投稿の活性化に直結するものと期待しております。会員のみなさまの積極的な論文投稿を、編集委員会一同、心よりお待ち申し上げます。どうぞよろしくおねがいたします。

第27期『文化人類学』編集主任 真島一郎